

第2回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和元年6月3日(月)PM7:00~PM8:30
場 所 新城市消防防災センター 2階 災害対策本部室
出席者 委員27名 事務局4名

次第

- 1 会長あいさつ
 - 2 議事
 - (1) 地域活動交付金審査結果に伴う審議について
 - (2) 令和2年度地域自治区予算
昨年度からの引き継ぎ事項について
 - 3 連絡事項
 - (1) 可燃ごみ集積施設整備事業(昨年度の自治区予算提案事業)について
-

1 会長あいさつ

- ・定数28人のところ27人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を2名指名し署名をお願いした。

2 議事

(1) 地域活動交付金審査結果に伴う審議について

(採択団体について)

分科会長より令和元年6月1日の審査会の結果を採点結果一覧資料により説明した。内容については、10団体の申請があり、厳正な審査の結果、10団体全てが採択条件を満たしたことを報告した。

審議結果

分科会の審査結果を基に採択について協議し、地域協議会として承認した。このことから10団体について、地域活動交付金を交付することとなり、市で交付決定通知を送付することとなった。

(二次募集について)

予算残額を含め二次募集について検討したが、スケジュール的に団体にとって厳しいのではないかなどの意見があり、分科会としては二次募集を行わない方がよいとの方針を報告した。

○主な意見

- 委員 交付金を知らない団体もあるのでさらに声かけてもいいのではないかな。
- 委員 活動を援助するという意味ではやった方がいい。ただ、やるにあたっては、なぜ二次募集で応募したか、という詳しい理由を聞き取った方がいい。

- 副会長 この交付金についてあまり知られていないと思う。回覧板は来ても、次の方に早く回さないといけないとなる。来年度はよりたくさんの方に応募してもらえるようにPRを努力していきたい。
- 委員 いつも交付金の募集時期が遅いと感じている。申請は4月からだが、12月までに次年度募集概要などについて早めに告知をしておく、団体も申請の準備などができる。
- 委員 今回の応募状況を見ると、9割が継続案件。周知徹底が図れていない。二次募集をしても同じような状況となるだろう。来年度に向けて、今から準備をしていく方がいい。
- 委員 5年継続の問題もきちんと地域協議会として決めた方がいい。
- 委員 各地区の現状について一番把握しているのは区長なので、区長を通して区総会などでPRするとより広がっていくのではないかな。
- 委員 何でもかんでも区長というのはいかがなものか。昔と比べて区長の負担は1.5倍となっている。自治区制度がスタートする時にやってみたくて事務局で17地区全部回ったらどうか。事務局に余裕があれば。
- 事務局 区で集まる総会などに出向いてPRすることも検討する。
- 委員 交付金チラシには2～3月が事前相談期間となっているが実際相談があったのか。
- 事務局 確認して後日回答する。(※後日確認済→継続団体からの相談が2件ほどあった)
- 委員 この地域活動交付金の制度は永遠に続くのか。制度をやめるという判断はどこでするのか。
- 事務局 地域自治区条例に基づいているが、条例としたのは、首長が変わっても制度が続いていくという継続性を担保したものだ。条例がある限りは続いていく。
- 委員 条例の中に何年後に見直しするという項目はあるのか。
- 事務局 見直し項目はない。いつかは分からないが市議会や地域協議会でそうした意見が出てくれば見直しすることも当然ある。
- 委員 条例の下に規則か何かで地域活動交付金と地域自治区予算の規定が定められていないのは本来はおかしい。条例の下にいきなり要綱という構造となっている。
- 事務局 地域活動交付金は補助金等交付規則に基づいている。
- 委員 要綱の上の基となる条例または規則が現状ないので根拠が乏しい。
- 委員 活動したいという人は成果報告会の時に見に来るので、その場で事務局が交付金の申請の相談に乗って説明をする場となればいいのか。
- 事務局 2月の独自の東郷成果報告会の際には、その会の企画内容について後日活動交付金分科会を開催し、充実したものとなるように検討していただきたい。

審議結果

二次募集は行わない。また、来年度の地域活動交付金の周知、受付期間を現状よりもっと早め、申請団体が余裕を持って準備できるように周知していくこととなった。

(2) 令和2年度地域自治区予算

昨年度からの引き継ぎ事項について

(事務局説明)

- ・地域自治区予算策定要綱、基本的なルール、具体的要件について
- ・他地域自治区の具体的な事業例一覧について
- ・過去6年間分の東郷自治区予算事業について
- ・昨年度からの引き継ぎ事項について
- ・地域計画の経緯、必要性、活用方法について

○主な意見

会 長 要するに来年度の令和2年4月から実施する事業予算を決めていくということ。

昨年度からの引き継ぎとして継続事業になっているものの予算額は分かるのか。

事務局 AED設置については、再継続5年リースとすると年間30万ほどかかる。可燃ゴミごみ集積所整備費については、3カ年計画となっているので今年度含め残り2年となっている。地域安全灯についてもすでに要望を聞いている区もある。予算額は、区に聞いてみないと現段階では、はっきりとは分からない。引き継ぎ事項にある事業を継続するかも含めて協議いただきたい。

会 長 引き継ぎ事項となっている事業を継続したとして、それ以外の残りの予算を地域計画にある5つの柱にどう配分していくのかを考えたい。全体で議論していくのは、收拾がつかなくなりかねない。ひとつの案として、希望を取って全体を5つのグループにわけて、グループごとやりたいことを絞り込んでもらうのはどうか。その結果を全体にかけてどれをやるかやらないかを決めていく。

委 員 東郷西地区で東郷西こども園につながる道路が狭く車同士がすれ違えないところもあり、交通安全上の問題もあるので、市で道路を拡幅及びカラー舗装をしてもらうように平成29・30年度に西5区で2年要望を出した。市で昨年度から今年度にかけて一部実施してくれたが、その部分以外は難しいと言われている。事業自体は全部で7～8年かかるので、可能性があるなら自治区予算の全体を見ながらそれについても取り上げてくれると大変ありがたい。

会 長 それは柱の2番目の守ろうのところ。具体的な要望事項を柱ごとに分けてもっていかないとまとまっていけない。

委 員 まとめていくなら覚えておいて欲しい。あくまでも提案である。

委 員 今後のスケジュールを確認したいのと、自治区予算は実行が来年度とスローペースなので、会長が言われたようにみんなに必要な事業案を出していくのがいい。ここで考えた事業は来年度の予算なんだというイメージを持ちながら考えていかないといけない。1年で終わってしまう委員はなかなかイメージが持てない。

会 長 だからしっかりと来年の区長に引き継いでもらわないと分からなくなる。理想を言うと区代表枠は区長ではなく、専門の地域協議会の委員を作り育ててもらうのがいい。

副会長 ここの中での議論は無理だと思うので、地域計画分科会で具体的な部分を作ってきて、次回の全体会までには分かりやすく資料として出せる形にしたいと思う。必要なら回数を増やしてでも考えたい。

- 会 長 来週月曜の地域計画分科会では、今後の議論の仕方も含めてもう少し深めていってほしい。
- 事務局 今後のスケジュールについて、9月12日の第3回地域協議会で事業計画予算の決定。その後、1ヶ月ほど事業計画予算を東郷住民に意見募集する。意見によっては臨時で地域協議会を開催し事業計画を修正することになる。最終的には、10月24日に事業計画を市長建議する。まずは、9月12日が当面の期限。その日までの会議の日取りは以前に決めたが、2つの分科会が連携しながら修正してもらってもいい。
- 会 長 どれだけの予算額を地域計画の方で使えるのかを把握するため、事務局で引き継ぎ事項の継続予算について積算しておいて欲しい。AEDの更新については各区に要望を取るのか。
- 事務局 AEDを更新するかどうかは区の要望を聞いて自治区予算分科会で協議してもらえばいい。
- 委 員 区の要望というのは、今年も各区長に対して、地域安全灯やゴミステーション整備などの要望調査を行うのか。
- 事務局 要望調査を行うか行わないかをこの場で決めてもらえばいい。項目をいただければ各区長に紙面で調査する。
- 委 員 各区への要望調査は実施した方がいい。要望する項目を決めた方がいい。
- 事務局 地域安全灯設置は毎年計画的に実施しているので、どの区も本当に必要なところはだいたい完了していると聞いている。が、平井区はまだ20カ所くらい申請したいと聞いている。
- 事務局 昨年度は、地域安全灯設置、可燃ゴミ集積所整備、防災備品貸与、カーブミラー、カラー舗装について各区に要望調査をしている。
- 委 員 カラー舗装は表面がぼろぼろになっているところもあり掃除が大変。
- 委 員 防災士については、呼びかけても全然人が集まらない。もう少し区から問い合わせを行ってくれるといい。
- 委 員 区長に回覧するなら防災士とは何かをしっかりと周知しないと分からない。
- 委 員 防災士になると新城市防災士協議会に入り、みんなで防災スキルアップできる。
- 会 長 防災士は具体的になりたいという意見がないと要望とっても意味がないので、防災士は要望調査を取らず、昨年度と同様の要望調査を実施する。
- 委 員 可燃ごみステーションはいくらくらいかかるのか。
- 委 員 利用世帯数に5,000円をかけた金額。
- 会 長 各組で努力されて自分たちで作ってきた面もあるので、すべて補助金で賄うのは図々しい。自分たちで作るという姿勢も大事にしていきたい。
- 事務局 今週に区長宛に要望調査票を送るので、6月中を期限に区民の意見をまとめていただきたい。
- 会 長 要望事項については、どれくらい認められるかは分からないが、議論していく。
- 委 員 交付金のPRが足りないなので、回覧板だけでなく自治区予算で使ってPRする予算をとったらいい。
- 会 長 申請のハードルが高い。専門的すぎるのももう少し敷居を低くするべきだ。アンケート用紙みたいに、簡単に申請書類が書けるようにできればいい。

審議結果

地域安全灯設置、可燃ゴミ集積所整備、防災備品貸与、カーブミラー、カラー舗装について各区に6月中に要望調査を行い、それらの結果を参考に自治区予算の残りの部分の予算について地域計画に基づいて協議していくこととなった。また、地域計画分科会が6月10日に開催されることから、そこで今後の進め方についても議論を深めていくこととなった。

3 連絡事項

(事務局説明)

- ・可燃ごみ集積施設整備費補助金の申請について該当区に依頼した。

(委員説明)

- ・国の補助金を使い、地域協議会が主体となり雁峰林道を整備しながらスポーツツーリズム、農泊とを絡めながら事業をしていく話が出ていることについて情報共有があった。

【20:20 終了】